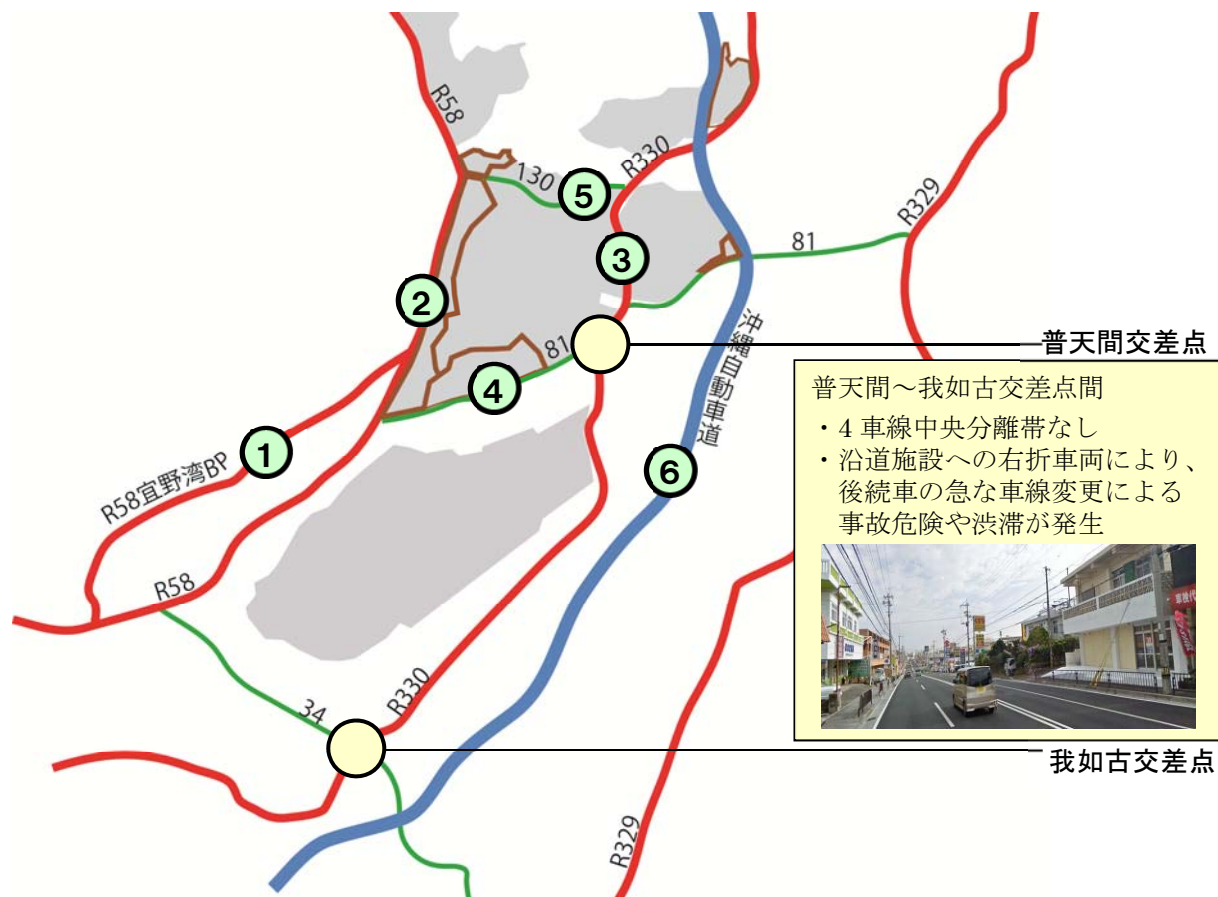


2) 周辺道路の現状

キャンプ瑞慶覧周辺の道路の現状は、南北動線として国道 58 号（国道 58 号宜野湾 BP）、国道 330 号、沖縄自動車道、国道 329 号、東西動線として、県道 81 号線、県道 130 号線がある。

また、国道 330 号普天間・我如古交差点間では、中央分離帯が無いいため沿道施設への右折車両により後続車の急な車線変更による事故危険や渋滞が発生している。



		
①国道 58 号宜野湾バイパス (4車線中央分離帯側道あり)	②国道 58 号 (6車線 中央分離帯あり)	③国道 330 号 (4車線 中央分離帯あり)
		
④県道 81 号線 (4車線 中央分離帯あり)	⑤県道 130 号線 (4車線 中央分離帯あり)	⑥沖縄自動車道 (自動車専用道路 4車線)

写真：google

図 2-52 周辺道路の現状

3) 現状交通量・混雑度

現状交通量・混雑度は、平成 22 年度道路交通センサスの結果より把握した。結果は、以下のとおりである。

●混雑度 1.75 以上（慢性的混雑状態を示す）

- a. 宜野湾市宇地泊 2.21
- b. 中頭郡中城村久場 1.80

○混雑度 1.25～1.75

（ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態）

- c. 宜野湾市大謝名 1.64
- d. 宜野湾市字愛知 1.43
- e. 浦添市西原 1.39
- f. 西原町字上原 1.31

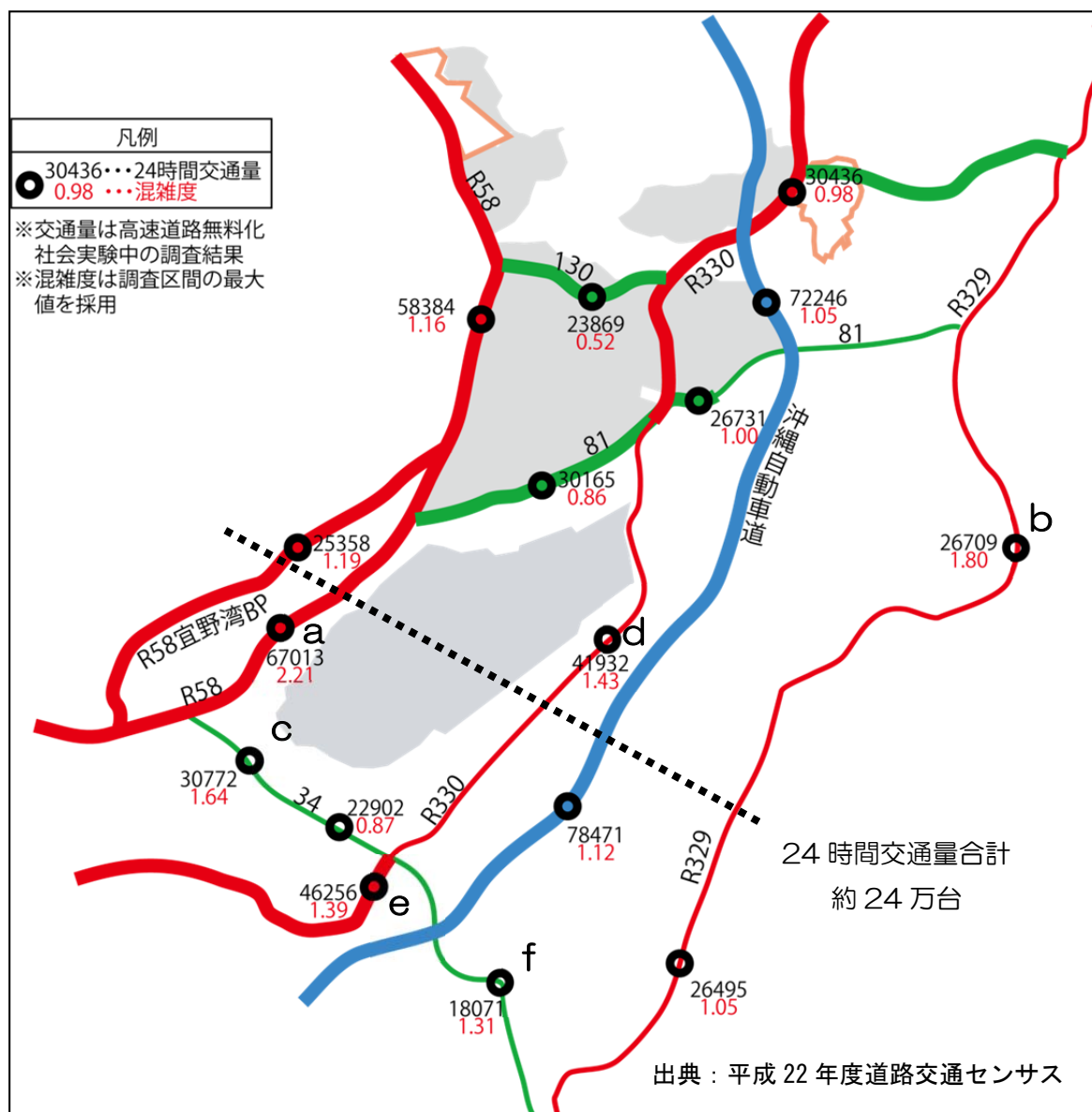
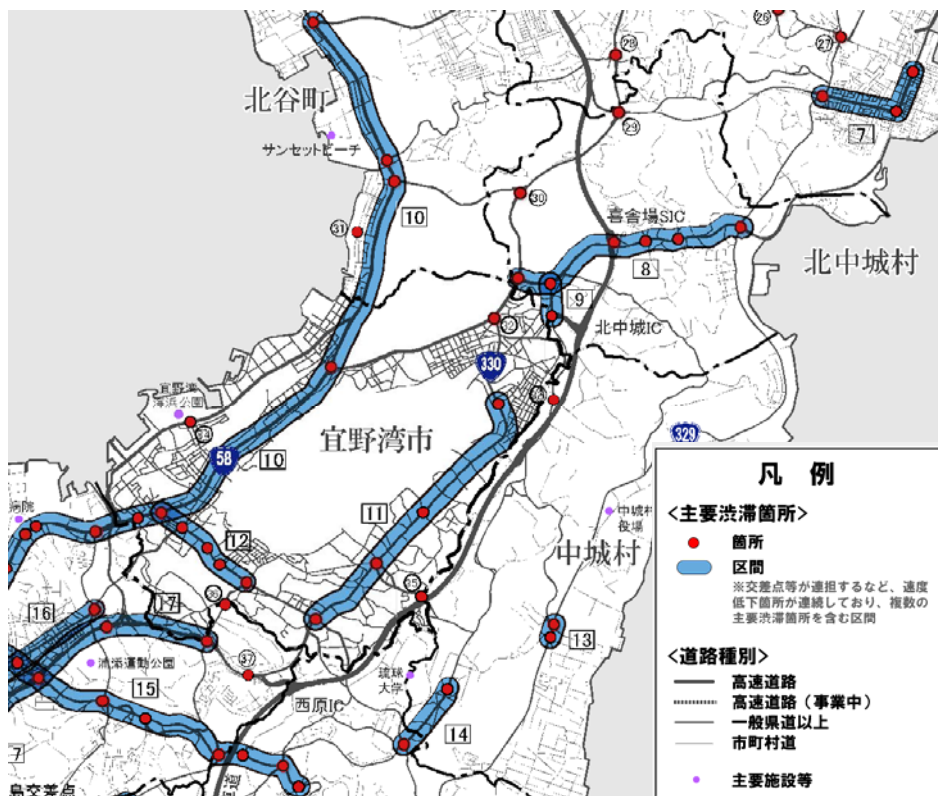


図 2-53 交通量・混雑度

宜野湾市域の主要渋滞箇所は、国道 330 号、国道 58 号、県道 34 号線である。また、宜野湾市域の混雑時旅行速度は、三大都市圏とほぼ同等の水準である。



出典：「続!! わった一島の渋滞改善さびら 2013(平成 25)年 3 月 沖縄総合事務局」の一部抜粋

図 2-54 主要渋滞箇所図

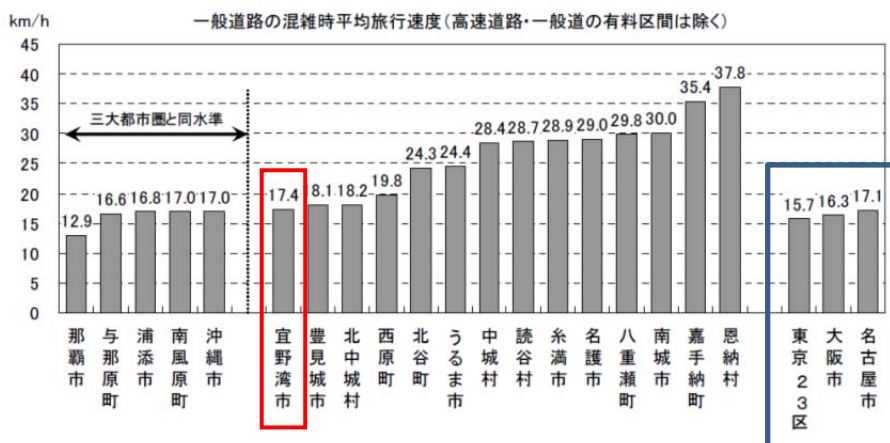


図 2-3 市町村別の混雑時旅行速度

※一般道路の平均旅行速度(高速道路、一般道の有料区間は除く)
 ※混雑時とは、各道路区間における最も交通量が多い時間帯のことであり、道路区間により異なる

出典：道路交通センサス一般交通量調査(国土交通省道路局、H22)

出典：「沖縄県総合交通体系基本計画」2012(平成 24)年 6 月 沖縄県

図 2-55 市町村別混雑時平均旅行速度

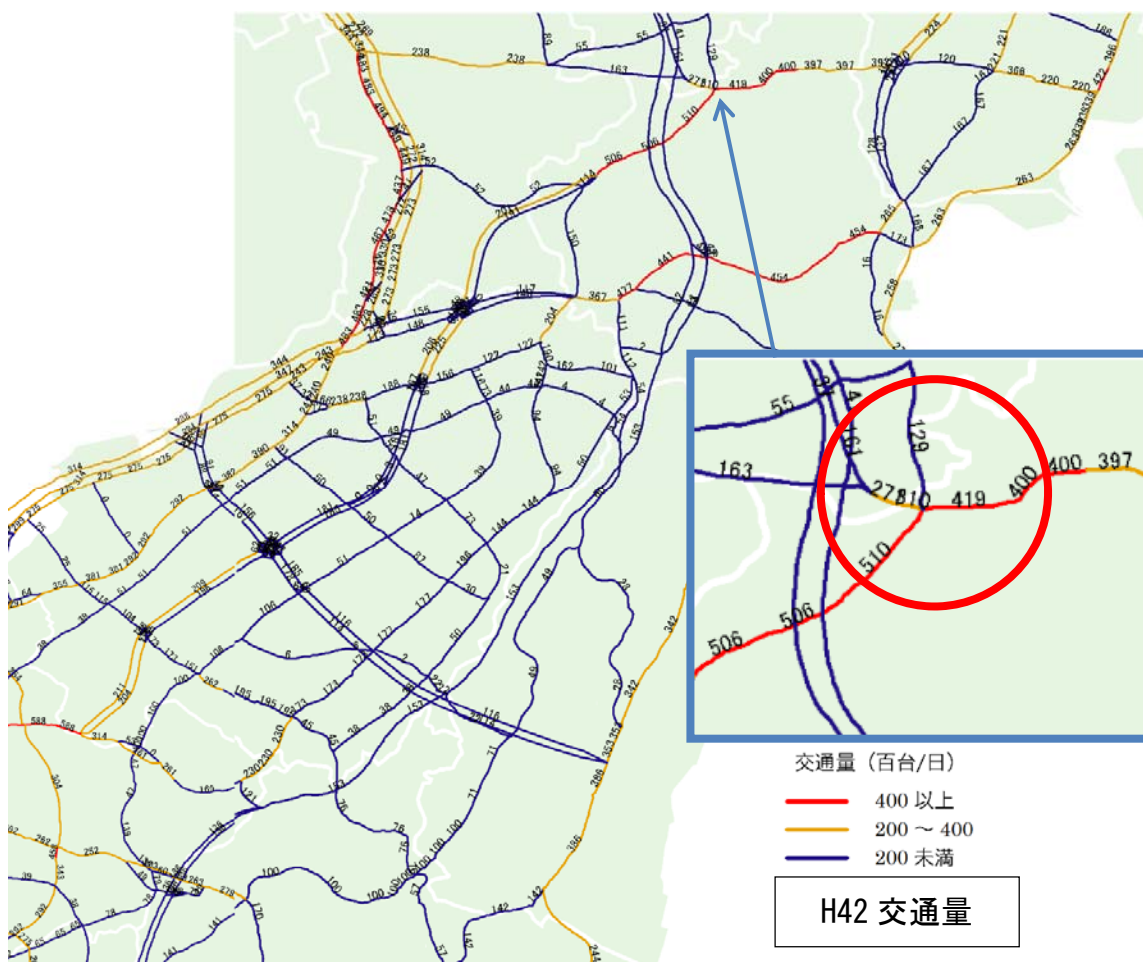
4) 将来交通量・混雑度

将来交通量・混雑度は、アワセゴルフ場地区等を含む周辺開発及び中南部都市圏駐留軍用地からの発生集中交通量も考慮された「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査」より把握した。

将来混雑度の結果をみると、ライカム交差点付近（次ページ図赤丸印）において、「ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態」である混雑度1.25以上となっている。

■2030(平成42)年交通量（第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査）

- ・ライカム交差点（赤丸印）
- ・国道330号交差点南側 51000台/日
- ・国道330号交差点北側 12900台/日
- ・県道85号線（交差点東側） 41900台/日
- ・中部縦貫道路 36600～43100台/日（図中数値の読み取れる範囲）



出典：「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

（沖縄本島中南部都市圏総合都市交通協議会 2009(平成21)年3月）」

図2-56 将来交通量

■2030(平成42)年混雑度 (第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査)

- ライカム交差点 (赤丸印)
 - ・ 国道330号交差点南側 1.77
 - ・ 国道330号交差点北側 1.34
 - ・ 県道85号線 (交差点東側) 1.45
- 中部縦貫道路 1.0未満



出典：「第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査

(沖縄本島中南部都市圏総合都市交通協議会 2009(平成21)年3月)」

図2-57 将来混雑度

5) アワセ土地区画整理事業による周辺道路の交通負荷増大への対応について

「アワセ土地区画整理事業（大規模商業施設）による周辺道路（ライカム交差点等）への交通負荷増大への対応策について北中城村にヒアリングを行った。

その結果、周辺道路への影響回避のための効果的な対応策について、北中城村が関係機関と協議中であることが把握された。

北中城村が検討している対応策は、以下のとおりである。

- 地区の四方合計で6箇所の出入口を配置するとともに、駐車場へ入る車両が周辺の一般道路で待ち車列をつくらないために、敷地内にループ道路を計画している。
- 交差点部においては、交差点流入枝を増やすなどして（例えば、ライカム交差点の流入枝は6車線）、交差点需要率を0.9以下に抑えている。
- 道路ネットワーク整備での対応として、地区南方面からのアクセスを可能にする道路（村道南部延伸線及び村道東西線）の整備を図っており、経路の選択肢が増やされている。これにより、パーソントリップ調査では国道330号と主要地方道沖縄環状線のみを負荷されている交通を分散させている。



図 2-58 交通負荷増大への対応（駐車場出入口の分散・公道への待ち車列防止）

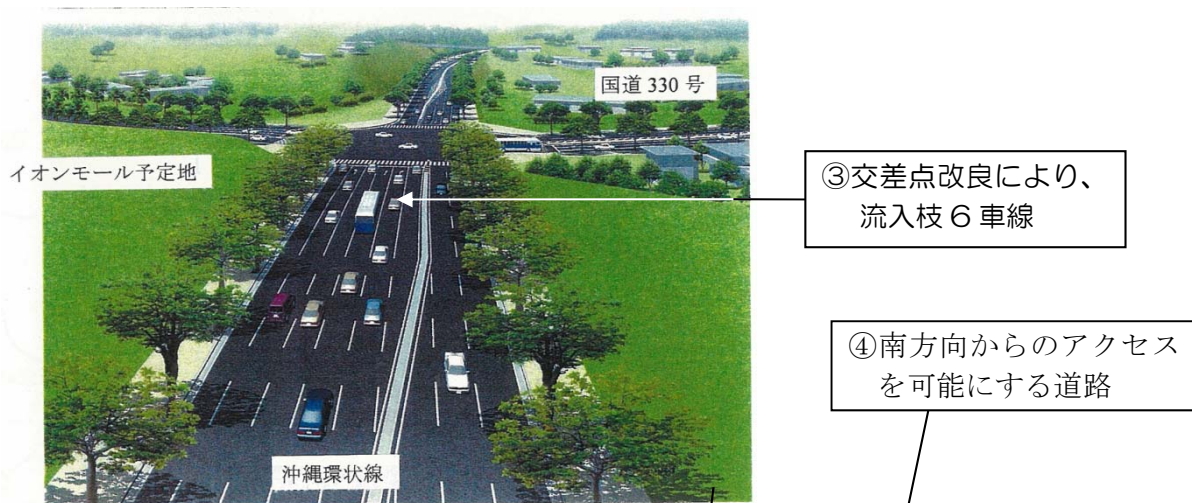


図 2-59 交通負荷増大への対応（交差点改良）

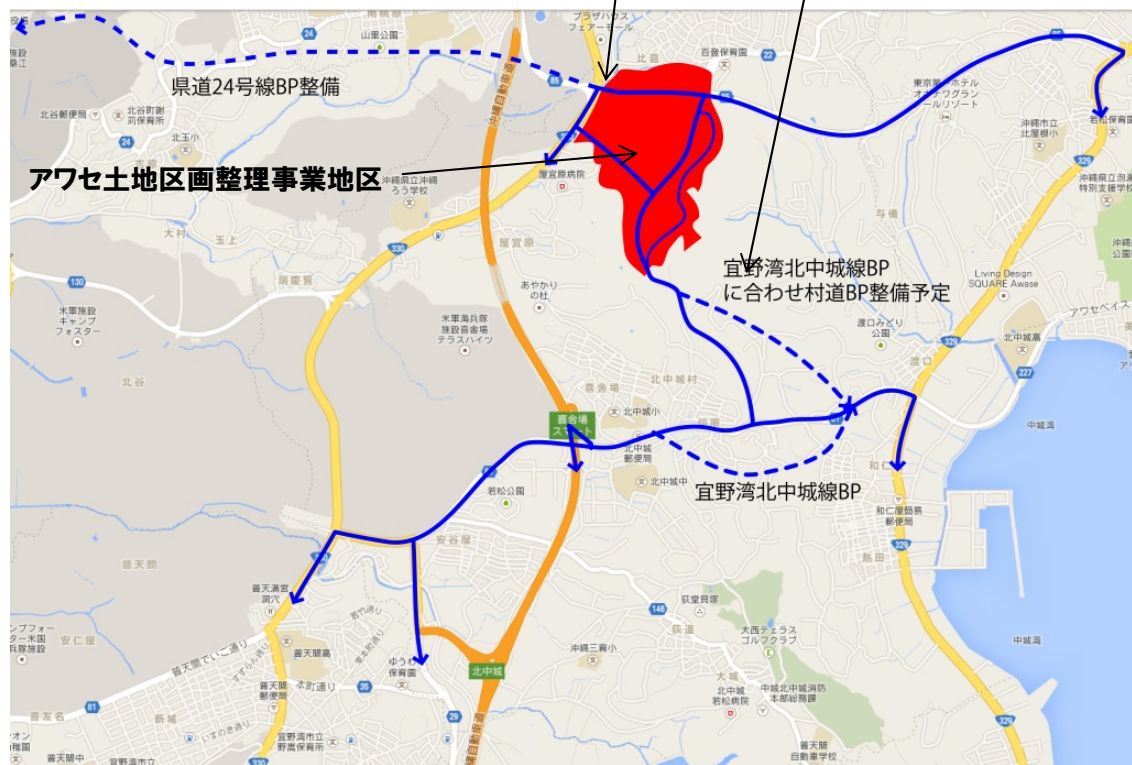


図 2-60 交通負荷増大への対応（アクセス経路の選択肢の増加）

6) 中部縦貫道路の新構想ルートへの検討

中部縦貫道路は、統合計画で返還が示されていないエリア、早期に返還される西普天間住宅地区を通過することから、開発と計画の時間軸の整合が必要である。

一方、国道 330 号は慢性的な交通渋滞が発生しており、早期解消が必要である。また、普天満宮周辺では「いつ来てもなにかがある、いつも来なくなるまち 普天間門前“交流”舞台 ～世界中で普天間だけの舞台づくり～」をまちづくりのコンセプトとして「普天間交差点の改良と門前広場等の整備及び松並木の再生」「交流拠点施設の整備」等の検討が進められている。

このようなことから、予定される普天間飛行場の返還前に周辺のまちづくり動向を踏まえつつ普天間飛行場以外の道路整備を進め、返還後のスムーズな跡地利用を図る必要がある。

以上のことから、中部縦貫道路の新構想ルートは、次ページ図に示すルートを想定した。なお、詳細ルートは沖縄県道路街路課にて検討中である。

■沖縄県が実施している調査の概要

平成 25 年度沖縄県広域道路整備基本計画調査

1. 目的

- 沖縄 21 世紀ビジョン基本計画・基地返還関係を含めた社会経済情勢の変化を踏まえ、主要個別路線の道路機能等の検討や基地返還予定時期等を踏まえた超長期（H42 年度以降）の道路ネットワークの検討を行い、沖縄県広域道路整備基本計画（素案）を取りまとめる。

2. 業務内容

①道路機能等の検討

- ・対象路線：中部縦貫道路、宜野湾横断道路 他

②計画目標年次の設定と道路ネットワーク検討

- ・基地返還予定時期等を考慮した上で、平成 42 年度以降の目標年次を設定し、道路ネットワークの検討。

③沖縄県広域道路整備基本計画（素案）とりまとめ

- ・道路ネットワークに係る評価指標の設定、効果検証等を行った上で素案を取りまとめる。

※公募資料より作成

■ 中部縦貫道路の新構想ルート

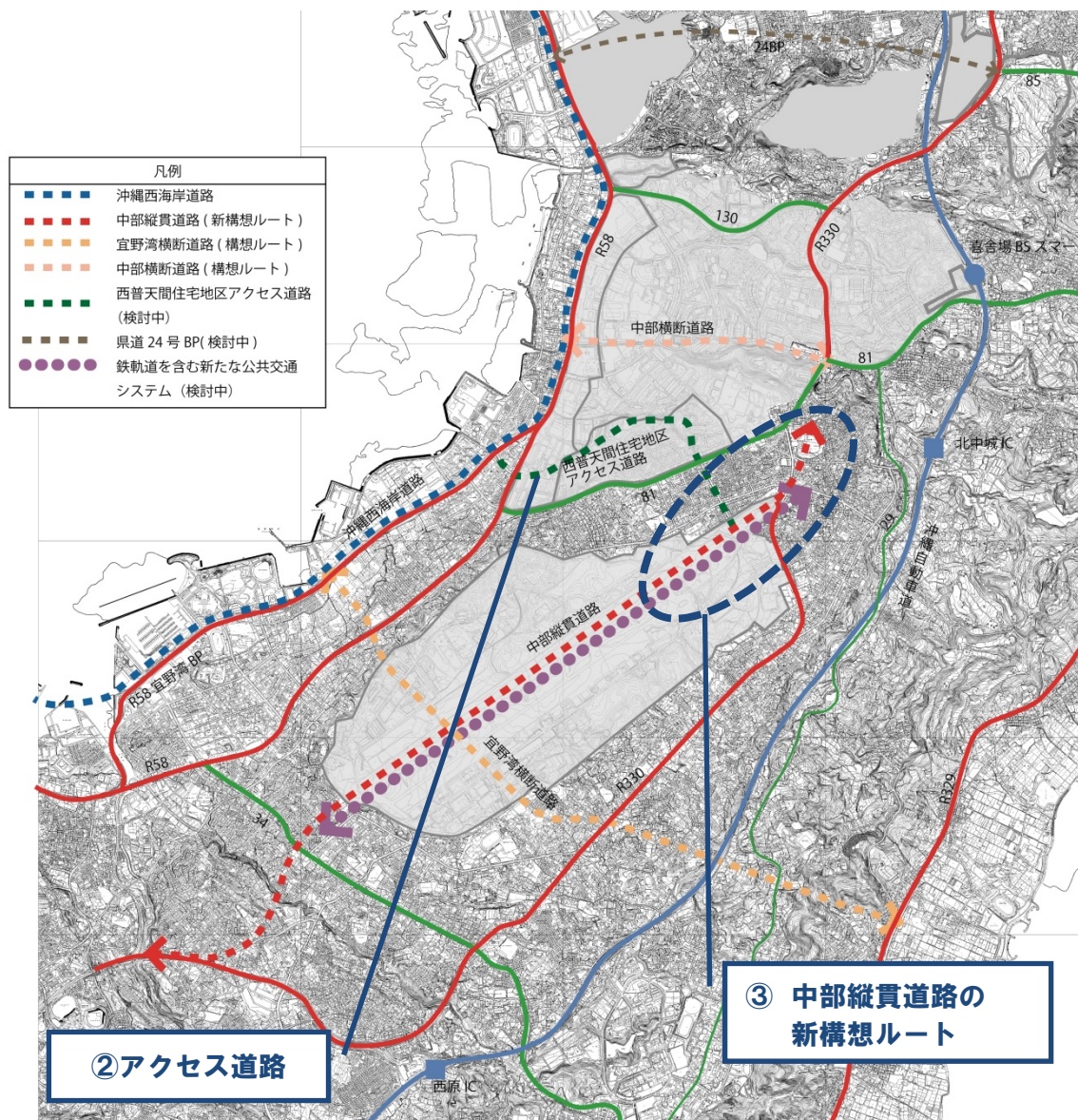


図 2-61 中部縦貫道路の新構想ルート

7) 周辺市街地における道路体系の整理

中部縦貫道路の新構想ルート及び周辺都市計画道路を踏まえ、普天間既成市街地及び普天間飛行場、西普天間住宅地区等の周辺市街地をつなぐ道路網イメージを作成した。

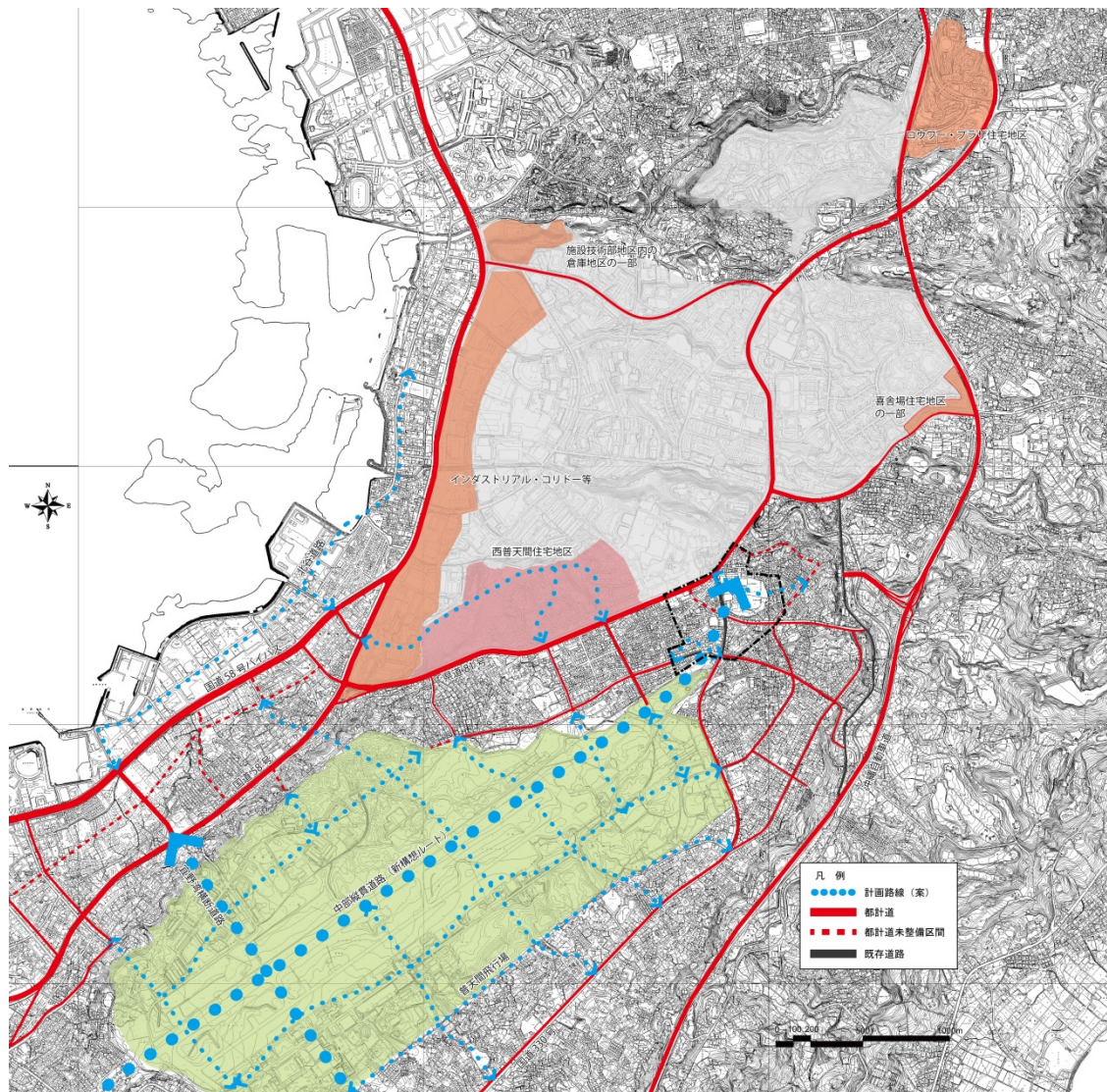


図 2-62 周辺市街地の道路網イメージ

8) 駅とフィーダー交通の検討

駅の配置やフィーダー交通の検討にあたっては、担当部局が計画している鉄軌道計画をベースにして、当地区と西海岸地域、西普天間住宅地区等、跡地周辺既成市街地等の連携を支えるために、鉄軌道とフィーダー交通システムが一体となった公共交通ネットワークを形成することを基本とした。

鉄軌道やフィーダー交通の機能及び施設配置方針は、以下のとおりである。

なお、今後駅周辺部の整備のあり方について検討を行う。

鉄軌道駅	
	● 鉄軌道は那覇～名護を1時間で結ぶ幹線鉄道の役割が求められていることに鑑み、その駅勢圏を1kmとし、駅勢圏が重ならない駅間隔(2km)を標準とする。
拠点駅(鉄軌道駅①)	当地区中央に拠点駅を配置、フィーダー交通との利便性の高い結節機能を付与する。
提案駅 (提案鉄軌道駅②)	駅間距離、県道34号線を通るバス路線との連携、周辺に形成された市街地状況を勘案し配置する。
提案駅 (提案鉄軌道駅③)	駅間距離、周辺に形成された市街地状況、生活・文化の拠点である市役所・普天満宮等の立地を勘案し配置する。

フィーダー交通 (LRT 等)	
	● 拠点駅(鉄軌道駅①)から周辺市街地を周回するルートを設定する。
	● 駅(停留所)は、沖縄都市モノレールの駅勢圏を参考に、500m程度の間隔で配置する。

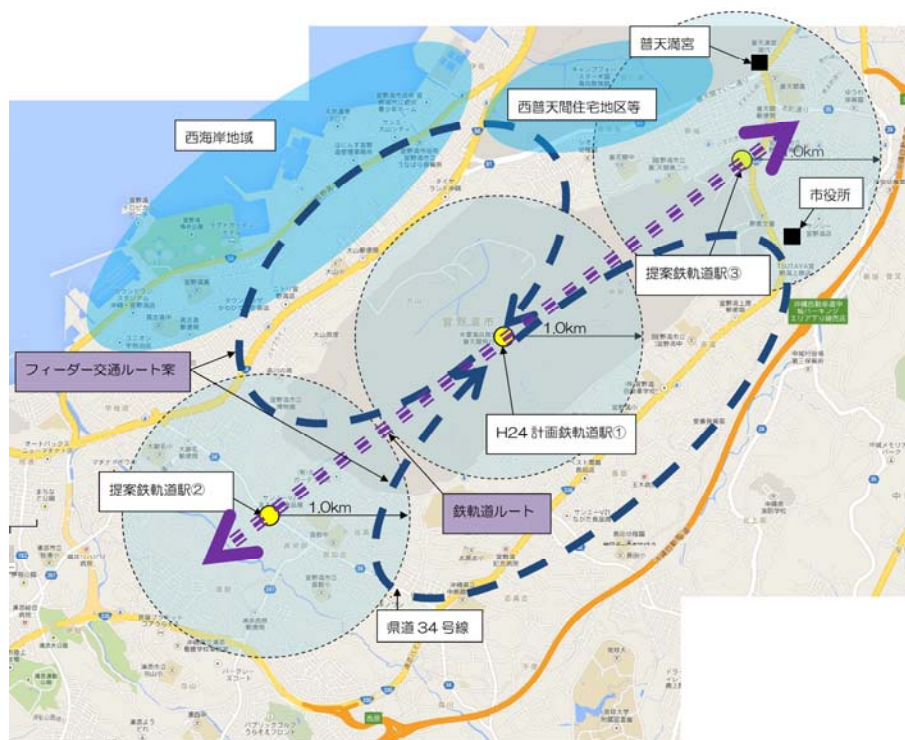


図 2-63 駅位置とフィーダー交通ルートのイメージ

(3) 供給処理・情報通信基盤の整備

当地区における供給処理・情報通信基盤の整備に関しては「全体計画の中間取りまとめ」において以下のとおり整理されている。

1) 供給処理・情報通信基盤の考え方

普天間飛行場跡地においては、環境づくりと連携した供給処理基盤と産業立地や先進的な都市サービス導入のインフラとなる情報通信基盤を整備することが必要である。

供給処理基盤に関しては、広域的な既定計画による施設整備に加えて、低炭素化、資源循環、水循環の保全等に向けた先進的な取り組みの導入が想定される。

具体的なメニューとしては、上下水道、電力、ガスといった広域における既定計画に基づく施設整備に加え、雨水地下浸透の促進や地区外への雨水流出抑制に向けた雨水排水施設の整備、低炭素まちづくりの実現に向けた省エネルギー化や、再生可能エネルギーの活用が考えられている。

一方、情報通信基盤に関しては、情報通信関連産業の誘致や新しい都市サービスの導入等を目標として、ハード・ソフトに渡る先進的な取り組みを導入することを目的として、県内から国内外への通信コスト低減の取り組みに資する「戦略的通信コスト低減化支援事業」や「沖縄国際情報通信基盤整備事業」等の導入、生活スタイルの多様化を視野に入れたブロードバンドサービスの導入等が考えられている。